

ビルマ語述部要提

原 田 正 春

— 序 —

私の『ビルマ文法』は Judson や Stewart のそれと違うところがある。U. Pe Maung Tin やその他の書も参考には見たが、しかし私のは少し特徴がある。私の考えるビルマ文法をここに全部記すわけにいかないのだから、先ずその述部を取りあげることにした。

動詞は最初に音節的に区別していく。複音節動詞にもいろいろの場合のあることを知る。動詞は名詞にもついて廻り、また動詞補として、あるいは構成動詞として幅広くはたらく。

1. 単音節動詞

sa. dē	始める。	hta. dē	起きる。
pē: dē	与える。	sā: dē	食べる。
pya. dē	示す。	hmā dē	注文する。
ya? tē	立つ。	hpa? tē	読む。
hma? tē	記録する。		

以上のように i の部、e の部というように分類する。鼻音はもとより複母音的のものも 1 に抱合せしめる。(tē 注助動詞参照)

2. 複音節動詞 I

次の複音節動詞は、個々にはそれぞれの意味があるが、複合することによって別の意味をつくり、そして切り離してはその意味がほとんど全く失われる、否定の場合には否定詞 mā を複音節の前に置く。

kyō: zā: dē	努力した。	htau? hkaŋ dē	支持した。
siŋ: zā: dē	考えた。	taiŋ biŋ dē	相談した。
chī: hmyiŋ. dē	賞讃した。	sauŋ. shau? tē	見守った。
soŋ: hpya? tē	決断した。	sī yiŋ dē	実施した。
yoŋ hmā: dē	疑った。	sō gā: dē	侵した。
ye? se? tē	苦しめた。	hti. hkai? tē	負傷する。
kē. ye. dē	非難する。	tauŋ: baŋ dē	請願する。

soŋ: mə dē	注意する。	sauŋ ywē? tē	行なう。
chiŋ: ka? tē	近寄る。	naŋ: shou? tē	接吻する。
swē: laŋ: dē	思い出す。		

否定の例: makyō: zā: bū: 努力しない。

3. 複音節動詞 II

次の複音節動詞は前者が主体であるから、前者のみでもその意味を現わす。後者は、①単なる虚辞である。②強調のため、③意味の深化・拡大化のため、大体この三種である。勿論否定詞 mə は前者の前に置く。

kū nyī dē	援助する。	hke? hke: dē	困難である。
kyaŋ sauŋ dē	思策した。	chau? hlaŋ. dē	おどろかした。
ŋyiŋ: pē dē	拒否する。	htū: chā: dē	異色である。
pauŋ: θiŋ: dē	交際する。	hpyē? sī: dē	破壊する。
hpei? kyā: dē	招待する。	lwaŋ: su? tē	恋しく思い出す。
su. sauŋ: dē	蒐集した。	wē hŋa dē	配布する。
sā lauŋ dē	ひもじい。		

否定の例: makū nyī bū: 協力しない。

4. 複音節動詞 III

次の複音節動詞は後者が主体であるから、否定詞 mə はやはり後者の直前に置くのを通例とする。

teiŋ: shauŋ dē	回避する。	yē twe? tē	かぞえる。
----------------	-------	------------	-------

(shauŋ は他の動詞に結ぶ構成動詞の性格を有する。)

否定の例: mateiŋ: shauŋ bū: 回避しない。

5. 複音節動詞 IV

次の複音節動詞はそれぞれ同格であるから、接頭辞 a による名詞化が容易である。しかし否定の場合 mə は複音節の前に置かれるのが普通である。これらは主として心理・能力に関する。

• htū: zaŋ: dē	珍らしい。	• pyauŋ hlaŋ dē	ふざける。
chi? kyai? tē	愛する。	hmā kyā: dē	通知する。
ti: hmou? tē	吹奏する。	sou? pya? tē	裂ける。
ŋyiŋ: hkoŋ dē	争う。		

上の・印は接頭辞を附されると、名詞的となる。たとえば:

ahtū: asaŋ: 珍しい事。 ati: ahmou? 吹奏。
 aŋyiŋ: ahkoŋ 云い争い。

否定の例：

mahtū: zaŋ: bu: 珍らしくない。 maŋyiŋ: hkoŋ bū: 云い争わない。

6. 複音節動詞 V

次の複音節動詞も同格であるが、接続助詞 I による分離が極めて容易である。

leiŋ. kya. dī ころげ落ちる。 leiŋ. ywe. kyā dī ころげ落ちる。
 hniŋ htou? θi 追い出す。 hniŋ ywe. htou? θi 追い出す。
 hmwē hnau? θi かき回す。 hmwē ywe. hnau? θi かき回す。

否定詞 mə は前にも中にも入れられる

7. 複音節動詞 VI

次の複音節動詞も同格ではあるが、しかし接頭辞による名詞化や助詞による分離は原則的に行なわれない。

sai? yau? tē 到着する。 tī htauŋ dē 建設する。
 hkaŋ zā: dē 享受する。

(前者の比重はより大きく、II のそれに近い。)

構成動詞について

日本語の「手放す」は「手を放す」「手から放す」から派生したにしても、今ではそれは一つの抽象概念をつくっており、切り離せない。「水遊びする」も同様であって、この場合は「する」が大きい役割を果たす。そういう形式のものがビルマ語には大変多いのであって私はそれを構成動詞と称する。それらを見分ける一番の方法は助詞を入れて見ることである。例えば「勉強する」はビルマ語では sã hpa? tē, sã kye? tē であり、助詞を入れて sã ou? kō hpa? tē とすると「本を読む」であり、具体的に「本」を示し、それを強調することになる。

ビルマ語においては「する」の他に「なる」「ある」は極めて重要で特別扱いすべきものと考えらるから、そういうものは I とし他を II と分けておく。

構成動詞 I

hpyi? tē 成立, 認定を示す。 shi. dē 存在, 意志を示す。
 lou? tē 動作, 行為を示す。 htiŋ dē 思惟, 推量を示す。
 tū dē 類似, 可能を示す。 kya. dē 過程, 結果を示す。
 kauŋ: dē 心理, 心情を示す。

① hpyi? tē 「成る」「です」

zawē zawā hpyi? tē ハッキリしない。 htoŋ: zaŋ hpyi? tē 習慣である。

ahpyū hpyi? tē 白である。

- 1) hpyi? は英語の be 動詞のようなもの。
- 2) hpyi? tē を構成的に見ない時は hpyi? 動詞, tē 助動詞。
- 3) これに相当する一字で示すものは, bē: bā である。

θū hpyi? tē ‘彼です’ θū bā ‘彼です’ θū bē: ‘彼です’

これはおおむね問いに対する答えの時に用いる。

- 4) hpyi? は動詞の後に来る時‘実現した’, を現わす動詞補となる。

② shi. dē “ある”

nyañ shi. dē 智慧がある。 賢明だ。

(nyañ ga. shi. dē とはいわない。)

θi? sā shi. dē 義理固い。 忠誠を示す。

sañda. shi. dē 意志がある。 希望がある。 願う。

(atē? bē lau? shi. byi lē: おいくつになりましたか。)

sayā と共によく用いる例：

pyō: zayā shi. dē 云うことがある。 ñyiñ: zayā mashi. bū: 文句はない。

wē zayā shi. dē 買いたい物がある。 lou? sayā mashi. bū: 仕事はない。

sā: zayā mashi. bū: 食物はない。 mē: zayā shi. dē 質問がある。

θa? ti. shi. dē 勇気がある。

③ lou? tē する。 作る。 成る。

alou? lou? tē 仕事をする。 chiñ zā lou? tē 漬物をつくる。

hkwē: lou? tē 馬鹿にする。

④ htiñ dē 思う。

hō hmā shi. dā mouñ hla eiñ htiñ dē あそこにあるのはモン・フラの家らしい。

dā kyunou? hā htiñ dē これは私のものと思う。

⑤ tū dē 似る。

gyapañ lū myō: nē. tū dē 日本人に似る。

mauñ ba. lou? hañ tū dē モンバがしたらしい。

名詞 hañ「態度」(この場合は pō, pau? をよく伴う) および助詞 nē, hni. と共に多く用いる。構成的に扱う。

⑥ kya. dē 成る。 至る。

atō: cha. dē 利息を増す。 ahlē. kya. dē 順番が来る。

aθoñ: kya. dē 役に立つ。 gwa. kya. dē 困る。

htauñ kya. dē 投獄される。 nau? kya. dē 遅れる。

nē yā kyā dē	うまく行く。	maθā chā dē	葬式をする。
hañ kyā dē	具合がよい	ōabō: kyā dē	満足する。
ōabāwā kyā dē	自然だ。	mwē: nē kyā dē	誕生日に当たる。
iñ: galei? mā kyā dē	英国婦人にそっくりだ。		
sei? atī kyā dē	心が定まる		

⑦ kauñ: よい。

pyō zayā kauñ: dē	楽しい。	ā: nāzayā kauñ: dē	気の毒だ。
chi? sayā kauñ: dē	愛らしい。	moñ: zayā kauñ: dē	憎らしい。
kyau? sayā kauñ: dē	恐ろしい。	yē zayā kauñ: dē	おかしい。

- 1) sayā の代りに sahpwē, zabwē を用いることもあるが、これは限られており、上例でいえば大体 chi? sabwē として以外は使用しない。ただし kyau? sabwē biñ のように kauñ: を用いずに書かれることはある。
- 2) kauñ: は「よい」であるが、kauñ: zā. dē で「よく食べる」とはならず、「よき生活を享受した」「恵まれた」ということである。

構成動詞 II

名 詞×sauñ 負う。 保つ。

ahmu. sauñ dē	任務を果たす。	eiñ dayē sauñ dē	おちついた態度を保つ。
miñ galā sauñ dē	結婚する。	yauñ sauñ dē	装う。
hañ sauñ dē	ふりをする。	kō wuñ sauñ dē	妊娠する。

名 詞×pā 含む。 伴う。

sei? pā dē	興味を持つ。	ñwē pā dē	カネを持っている。
wā ōanā pā dē	趣味を持つ。	lū pā dē	人をつれて来る。

名 詞×yai? 打つ。

da? poñ yai? tē	写真をとる。	gayē? yai? tē	反響する。
hpē: yai? tē	トランプをする。		

名 詞×pyē? 毀れる。

sei? pyē? tē	悲しむ。	kyauñ: pyē? tē	学校を休む。
wu? pyē? tē	義務を怠る。		

名 詞×θā 勝る。

la. θā dē	月夜だ。	θē? θā dē	楽になる。
wuñ: θā dē	嬉しい。		

名 詞×yā 得る。

ā: ya. dē	力強く思う。	ōadi. ya. dē	思い出す。
-----------	--------	--------------	-------

- nauṅ ḍa ya dē 後悔する。 anaiṅ ya dē 勝つ。
 名 詞×tiṅ 頂く。 載せる。
 apyi? tiṅ dē 罪をかぶせる。 kyē: zū: tiṅ dē 感謝する。
 ḍadṣū: tiṅ dē 申上げる。
 名 詞×lauṅ: 注ぐ。
 swaṅ: lauṅ: dē 布施する。 yē lauṅ: dē 水を注ぐ。
 ṅwē lauṅ: dē ばくちをする。
 名 詞×wiṅ 通じる。
 aθoṅ: wiṅ dē 役に立つ。 asā wiṅ dē 食べものがよく通る。
 akywaṅ: wiṅ dē 仲良しである。
 名 詞×lai? 追う。 従う。
 amē: lai? tē 猟に出る。 ahmu. lai? tē 事件を追う。
 alō lai? tē 自由にさせる。
 名 詞×θa? 殺す。
 asheiṅ θa? tē 速度を落す。 mi: θa? tē 火を消す。
 asoṅ: θa? tē 最後とする。
 名 詞×pyu. 行なう。
 atī pyu. dē 確立した。 gadi. pyu. dē 約束する。
 shiṅ pyu. dē 得度式をあげる。 aθi. ahma? pyu. dē 承認する。
 aθoṅ: pyu. dē 使用する。
 hteiṅ: myá: miṅ galā pyu. dē 結婚式をあげる。
 名 詞×yau? 至る。 達する。
 dou? hkā yau? tē 困る。 hkayi: yau? tē 効果をあげる。
 ayā yau? tē ものになる。
 名 詞×tai? 当たる。 打つ。
 kā: tai? tē 車が衝突する。 si? tai? tē 戦争する。
 mi: pū tai? tē アイロンをかける。 lē tai? tē 風が吹く。
 名 詞×tē? 登る。 上る。
 kyauṅ: tē? tē 登校する。 sē: yoṅ tē? tē 入院する。
 naṅ: tē? tē 即位する。
 名 詞×pē: 与える。
 ā: pē: dē はげます。 chaṅ: ḍā pē: dē 許してあげる。
 akū anyi pē: dē 援助を与える。 ashoṅ: pē: dē 負ける。

名 詞×kai? 噛む。 痛む。

gauŋ: kai? tē 頭痛がする。

wuŋ: kai? tē 腹痛がする。

θwā: kai? tē 歯が痛む。

名 詞×shā 探す。 求める。

si: pwā: shā dē 経済活動をする。 ɲwē ɛa shā dē 小使いをかせる。

dou? hkə shā dē 「世話をする。」 neyā shā dē 場所を探す。

名 詞×pau? 目芽える。 開く。 あく。

θi? piŋ pau? tē 木が生える。

beiŋ: pau? tē タイヤがパンクする。

laŋ: pau? tē 道が開通する。

htī pau? tē 宝くじが当たる。

θabō: pau? tē 意味となる。

θē: pau? tē 小便をする。

名 詞×shɔ. まける。

zē: shɔ. dē 値引く。

lē? shɔ. dē あきらめる。

ā: shɔ. dē あきらめる。

名 詞×yū 取る。 頂く。

aθā: yū dē 甘い汁をすう。

goŋ yū dē 名誉に思う。

bwē yū dē 先に立腹する。

ahkwiŋ. yū dē 許可を得る。

ayē: yū dē 問題にする。

名 詞×nē? 深い。 濃い。

ayaŋ nē? tē 色が濃い。

yē nē? tē 水が深い。

nyə nē? tē 夜がふける。

名 詞×htā: 置く。

pyi? htā: dē 放って置く。

gadi. htā: dē 約束を忘れない。

θabō: htā: dē 考えを抱く。

名 詞×chou? 縫う。

eiŋ: gyī chou? tē 着物を縫う。

sā gyōu? chou? tē 条約を結ぶ。

ni. goŋ: chou? tē 終結とする。

mō: chou? tē 夕闇が迫る。

名 詞×kyiŋ. 行なう。

anaŋ kyiŋ. dē 弱物いじめする。

makauŋ: kyiŋ. dē 悪しき行為をする。

madeiŋ: kyiŋ. dē 暴力をふるう。

名 詞×sē? つなぐ。

hnou? sē? tē 挨拶する。

mei? sē? tē 紹介する。

laŋ: sē? tē 道をつなぐ。

名 詞×hpyē 答える。 解ぐ。

amō : hpyē dē 疲労を回復する。 ganañ : hpyē dē 算数を解く。

yañ hpyē dē 喧嘩の仲裁をする。

sei? pyō dē 楽しい。

ei? pyō dē 熟睡した。

yoñ : siñ : dē 退庁する。

kyauñ : siñ : dē 下校する。

gadi sauñ. dē 約束を守る。

eiñ sauñ. dē 留守番をする。

añ. ā : θiñ dē 不思議に思う。

ohkai? θiñ. dē 折がよい。

aē : mi. dē 風を引く。

θahkō : mi. dē 盗人を捕える。

ahtiñ kyī : dē 思いあがる。

ahtiñ hmā : dē 感違いする。

ā : nā dē 気の毒だ。

wuñ : nē : dē 残念だ。

alē θwā : dē 旅行(遊び)に行く。

ahkuñ kau? tē 税金を徴収する。

atu. hkō : dē 真似る。

amyē? htwe? tē 怒る。

ahmu. htañ : dē 任務を遂行する。

dō : θa htā dē 怒る。

dō : pwā dē 怒る。

sā : lē : dē 塩辛い。

sā : pō. dē 甘い。

akya? twē dē 当惑する。

zē : wē dē 買物をする。

mō : hkō dē 雨やどりする。

mī : lauñ dē 火事になる。

eiñ mē? mē? tē 夢を見る。

nabañ : loñ : dē 相僕をとる。

nā : htauñ dē 傾聴する。

nā : lē dē 理解する。

mō : liñ : dē 夜が明ける。

否定するには否定詞 mā は動詞根の前に置かれる。その場合の動詞根はすべて音便を行なわない。

例 : mō : maliñ : bū : 夜は明けない。

構成動詞 III

構成動詞 I II は動詞の方に重心が置かれているわけであるが、これは反対に名詞の方に置く、否定詞 mā は後続の動詞の前に置く。

(1) bā (2) hmañ : (3) hmī (4) koñ

(1) sā ou? pā yū gē. (ついでに) 本も持って来なさい。

(2) kyunou? hmañ : θi. nē dalā : 私(だということ)を知っていたのですか。

(3) acheiñ hmī yau? tē 時間(に問に合うよう)に行けた。

(4) aswañ : koñ kyō : zā : dē 力いっぱいの努力をした。

否定の例 : aswañ : koñ makyō : zā : bū : 全力をつくして努力しない。

形 式 動 詞

普通の動詞だが、形式動詞としての要素が多分にあるので、別に一項を設ける。これを第二動詞と称してもよい。

- (1) sã hpa? pē: dē 本を読んでやる。
(2) pyō: pya dē 説明する。
(3) sai? htā: dē 植えてある。 hlu? htā: dē 放ってある。

形式的と称してもいろいろあり、kyi., ya, nē, 等も同類となることがある。

使 役 動 詞

形式動詞もこれも構成動詞の中におさめてよいのだが、やはり区別して置きたい。

- zē dē 使いにやる。 θwā: zē dē 行かせる。
pyō: pyazē 云わしめよ。 nē bā zē いいのだよ。
ā nā tī nē zē ya mē 権力は確立されていねばならない。
sei? kō pyō zē dī 心を樂しませる。
anyuŋ. matoŋ: zēya bū: 芽は摘み取られぬよう。
θwā: bayā zē さようなら。 lou? payā zē やらせて下さい。

「必らず」に転じた例：（この場合は Aukamyi? を附す）

- pyi: zē ya mē 必らず終らせねばならぬ。
θwā: ya zē mē 必らず行けるようさせてあげる。

「選択」に転じた例：

- yau? kyā: hpyi? sē meŋ: ma hpyi? sē 男女を問わず—

受 身 動 詞

勿論、語尾変化しないものだが、これも便宜上、ここにまとめて置く。

- hkaŋdē 「受ける」動詞。

「何々された」というきまった表現がある。

- ayai? hkaŋ ya dē なぐられた。 asō hkaŋ ya dē しかられた。

受身の要素を持つ構成動詞として

- tiŋ hmyau? chiŋ: hkaŋ ya dē 選ばれた。
aywē: hkaŋ ya dē 選挙された。

ya を伴うことに注意する。なお、動詞としては mahkaŋ naiŋ bū 堪えられない。

構成動詞として

- āmā hkaŋ dē 保証する。 asiŋ: yē: hkaŋ dē 困苦欠乏に堪える。
ε. gaŋ dē 客を歓迎する。

形 容 詞

ビルマ語においては形容する語の用法が、ほとんど動詞の場合と一致するので、特に形容詞の品詞を設ける必要がないようだ。名称としてはむしろ日本語の場合のように形容動詞とするか、あるいは用言という中で扱うのが適當のようだ。しかし実体をよく理解するため動詞との比較をして見る。

動 詞 の 場 合		形 容 詞 の 場 合	
lū leiŋ	ウソをつく人	lūgauŋ:	よい人
chi? θū	愛する人	pu. θū	脊の低い人
hpyi? θɔ: ahmu.	起った事件	wē: θɔ: aya?	遠い地方
dī lō ahkwiŋ.	このような機会	dī lō ahla	このような美
ahpyi? myō:	…のような出来事	awā myō:	…のような黄色
yai? chiŋ sei?	なぐりたい気持	hla gyiŋ zei?	美しくなりたい気持
akoŋ yauŋ: ōi	すべて売った	amyaŋ θwā: ōi	早く行った
kyi. kyi. nē dē	見てばかりいた	nī: nī: lā dē	だんだん近づいた
acheiŋ hmī dē	時間に間に合う	acheiŋ nē: dē	時間が足りない
koŋ koŋ yauŋ: dē	残らず売った	myaŋ myaŋ θwā: dē	早く行った

以上のように動詞と形容詞との差はほとんどないのであるが、ただ違っているのは副詞をつくる場合で、形詞容は *swā*, *zwā* を付してもつくられるのに対して動詞はそれができぬということである。

kauŋ: zwā yē: ōi 上手に書いた。

もっとも、*zwa* が付けられるのは形容詞の中でも主として

myaŋ zwā 早く, *kauŋ: muŋ zwa* よく,
hpyē: hnyiŋ: zwa ㊦っくり,

といったようなものに限られる。*nē: zwā yū ge* 「少し持って来い」とはいわないし、「軽くしなさい」を *po. zwā lou? pā* ともいわない。このような場合には通例 *auŋ* 助詞を用いる。

あるいは、*hke? hla zwā θɔ: alou?* 「大変困難な仕事」の場合に見られるように、他の形容詞の後に *zwā* がついているのではないか、という疑問が起るかも知れない。しかしこの *zwā* はもはや副詞的作用をしていないと見るべきだろう。また

wē: zwā aya?

も同様で副詞的作用をしているのではなく、*θɔ:* の代用と見るべきだろう。ただし動詞にはこのような例を見ない。また *hou? lē zwā* 「よくやった。」(ニュアンスはもっとある) の *zwā* は *zwā* の名残りではないかとの疑問は起り得る。

いずれにせよ、ビルマ語においては動詞と形容詞を厳重に区別せねばならぬ積極的理由はない。パーリ・サンスクリット借用語は自づと別である。

助 動 詞

動詞は助動詞の助けを得て陳述の用をなすが、その代表的なものは日本語の「ます」「です」に相当する *mē*, *dē* である。変っているのは *bē* : と *pā* で、前者は動詞と助動詞の役目を同時に兼っているもので、後者は *bē* : のような機能も有するが、大体は助動詞として働く。この二者を前に置いて区別する。

なお、助動詞は複合しない。*bā*, *gyē*, *pē* は助動詞補にもあるから注意する。

bē : (動詞×助動詞)

(1) *di lū bē* : 「この人です」

bē : が直接名詞の後に置かれる点は後出の *bā*, *di* : とよく似ている。

これは *hpyi[?] tē* に相当する。*alagā* : *hyi[?] tē* 「何もありません」。しかしこの場合は *bē* : を用いるのを慣用とする。*dā bē* : 「これだけだ」等も同様である。

後出の *dā*, *bā* のように、ここでは *hmā bē* : が問題となる。

θū yē : *hmā bē* : ①彼が書くのです。実はこれは種々の訳が可能で、②彼は書くに相異ない。③彼は書く筈である。④彼は書く立場にある。⑤放って置いても彼は書く。

つまり義務的、自然的、断定的に用いることができる。もっとも、表現を確実にするために副詞や助動詞補を付けることもあるが、しかし *hmā bē* : の形式はやはりひんばんに用いられる。

それでは次の場合は *bē* : は省略されたものと見るべきだろうか。

θū lā hmā

この *hmā* は *mē x hā* で、日本語の「一ます×は」「一るのは」「一るは」に相当する。しかしビルマ語のその結合形における *hā* の役割は、訴えや感嘆や疑問を示す。そうして見ると *hmā* は助動詞。それでははじめから *bē* : は不要であるのだろうか。

それはそれとして別の面から見ると、成るほど *hmā* は *mē*に通じるとしても、その後に *bē* : と同位の *hpyi[?] tē* を置いて見るとわかる。ちょうど日本語に似て、……するのである。

θū lā myī hpyi[?] θi

ただ日本語の場合と違って、*bē* : を省くことによって種々の意味を強調し得る。

1) *di lū bē* : *hpyi[?] tē* 「やはりこの人だ」。*dā bē* : *shi. dē* 「これだけである」「これしかない」前者は副詞接尾、後者は助詞。

2) *matētaṅ bē* : *tē ya ōi* 「死ななくてもよいのに死んだ」*ma—bē* : は接続の役目をしている。

(2) ba, pā (助) 動詞

htaiŋ bā 「座りなさい」

この bā は命令形として多く用いるが、それは強い命令でなく、「座って下さい」の程度。

丁寧さのあるところから、別の bā (敬語、助動詞補) と混同されやすい。

htaiŋ bā に疑問詞 lā: を付け、htaiŋ bā lā: とすると、種々のニュアンスを含むようになり、その場合 pā, bā となることがある。

どうぞお掛け下さい。

お座りなさい？

座りなさい！

座ったらどうなの！?

bā は「座れ」と強い命令にならないまでも、話者の態度や状況等に応じて与える感じが違ってくる。なお疑問語尾 lā: の役割は大きく、この場合多分に感動的性格を有する。

命令形の他にいま一つ名詞の直後に置く方法がある。形式的には動詞と助動詞を同時に兼ねているように見える。sā ou? pā 「本です」。つまり bē: と同様 hpyi? tē の代りに bā が用いられているというわけである。代置可能は同格内容を付与していると見てよい。省略現象としては hpyi? pā dē が pā だけを残したとなる。敬語助動詞補の bā と同音同字であり、関係も多少はある。

日本語からも理解できるように kyunou? pā 「私です」は、基本的には主語に対する補語、問いに対する答えとして生きる。それでは次の bā はどういうことになるのか。

akauŋ: pyō: dā bā 良いことを云っているのです。

ためを思っ云っているのです。

この場合の bā の文法的性格を認定するのはそう簡単ではない。というのは dā は dē 助動詞× hā 助詞であるが、dā で表現が終ることがよくあるため、一見 bā の文法上の位置が不明確となる。しかしこの bā はやはり hpyi? pā dē に相当するものであって、ここでは強調するため敢えて省略したのである。この dā は pyō: gyiŋ: 「云うこと」の gyiŋ: 名詞形成語尾は類似する。

またこの bā が助動詞であることは、疑問語尾 lā: を付けて見てもわかる。

akauŋ: pyō: dā bā lā: 良く云ってくれたのでしたね。

もっとも、これは感嘆であり、それ以外ではない。この bā は敬語助動詞補ではない。bā を除くと意味が変ってしまう。

akauŋ: pyō: dā lā: 良く云っているのですか。

これの答えが先のようなのである。したがって bā の後には助動詞の来ることがないが、接続助詞の来ことはある。

shau? pāmū 上申すると

なお、音調上、または強調のため、bā はよく pā となる。

naiŋ auŋ tai? pā mauŋ yē 勝つよう戦ってね、あなた。

(3) dē tē, ōi, 助動詞

この時相は現在および過去である。chi? tē は現に「愛している」のであり、過去に「愛した」のである。しかしまた現に「愛している」ということは、現在只今よりも何秒か前かあるいはもっと以前から「愛して来た」ことであり得るから、実質的には進行形のようにもとれる。

それでは「過去に愛したことがある」はどういうべきか、理窟からいえば bū:, ge., mi. 等の助動詞補を付ければよい。しかしこの場合は、「過去」とか「以前」の語を加えて

ayiŋ ahkā hmā dō. chi? pā yē. 以前には愛したよ。

とするのが自然であろう。

dē は抽象概念をも示す。

chi? tē sō dā hā dagē siŋ: zā: kyī. dō. nā: lē bo. malwē

愛するということはよくよく考えて見るとなかなかむずかしい。

② mē, myī 助動詞

この時相は現在から未来、といっても話者の意志に関わる場合が多い。事物にはそれ自身必然性や蓋然性はあるだろうが、そういうものについても話者の意志が示されることが多い。

ōū lā mē

では「彼」の意志よりも話者の意志の方が認められる。そこには話者の確信が含まれる。

勿論、客観的事実としては dē を用い、「机上に本がある」は zabwē: bō hmā sā ou? shi. dē. しかしそれを話者の意志として示す場合には、「ある筈だ」「あらねばならぬ」、つまり信念を伴った表現となる。

1. ei? htauŋ dē: hmā shi, dē ポケットの中にある。

2. ei? htauŋ dē hmā shi. mē ポケットの中にある。

1. は事実、2. は信念に基づいている。

未来形 leiŋ 助動詞補を mē の前に置くときでも、必ずしも単純未来とはならぬし、また leiŋ. がないからといって必ず意志が含まれるとは限らない。結局は話者の態度や文脈や状況等を計算に入れて判断せざるを得ないだろう。

③ dē と mē の相異点

前述の通り dē は現在から過去に、mē は現在から未来に用いるが、両者とも現在を含むので使用上よく間違える。両者の違いを一層ハッキリさせるため、いま少し比較をして見よう。

過 去 未 来

asō tiŋ ōwiŋ: ōi. ōū 申入れをした人。 asō tiŋ ōwiŋ: myi. ōū 申し入れをする人。

θwā: yə ŋi 行かねばならなかった。 θwā: yə myi (今後) 行かねばならない。
 pyō: gē. ŋi 云ってきた。 pyō: leiŋ. myi 云うでしょう。

前記したように dē は事実や抽象的概念を示し得るので単純な関係詞ともなる。myi は当然「今後」に関する。

sa ŋi. akyauŋ: ayā	balə hu. hkō yə myi. ahpwe.
一をはじめとする事柄	今後バラと呼ばねばならぬ団体。
客 観 的 ←-----→	主 観 的
必 然 的 ←-----→	強 制 的
決 定 的 ←-----→	可 能 的
過 去 ←----- (現在) -----→	未 来

なお, myi は疑問詞 bē の代りをする。ただし文語的。

以下は説明を省く。

- | | | | |
|---------------|---------------|------------------|-----------------|
| (4) i 助動詞 | (5) pyi 助動詞 | (6) chē, gyē 助動詞 | (7) pē, bē 助動詞 |
| (8) ŋadī: 助動詞 | (9) dagā: 助動詞 | (10) aŋ. 助動詞 | (11) lataŋ. 助動詞 |
| (12) auŋ 助動詞 | (13) zo. 助動詞 | (14) yē. 助動詞 | |

動詞補には次のものがある。

- | | | | | | |
|-----------|-----------|------------|------------------|-----------|-----------|
| (1) yə | (2) naiŋ | (3) ta? | (4) hkē:, gē: | (5) hkē? | (6) lwē |
| (7) θā | (8) lō | (9) kauŋ: | (10) htai?, dai? | (11) θiŋ. | (12) taŋ |
| (13) a? | (14) saŋ: | (15) pyiŋ: | (16) lau? | (17) θwā: | (18) lai? |
| (19) pyi? | (20) nē | (21) hpyi? | (22) wuŋ. | (23) yē: | (24) yi? |

助動詞補としては次のものがある。

- | | | | | | |
|----------|---------|-----------|----------|--------|--------|
| (1) chiŋ | (2) bū: | (3) leiŋ. | (4) hke. | (5) lē | (6) pā |
| (7) la? | (8) bi. | (9) pe | | | |